＜サムライ即応監査＞通信フライアウェイ・キット 横田の即応力を確保（1）

Comm Flyaway kit ensures Yokota readiness during SRI

October 26, 2021

By Yasuo Osakabe
374th Airlift Wing Public Affairs

（写真1）10月20日、横田基地で行われたサムライ即応監査で、通信フライアウェイ・キット（CFK)を設置する第374通信中隊サイバー送信監督官主任カイル・ウィルソン軍曹（左）と同中隊無線周波送信監督官プレストン・カオレロポノ軍曹（右）。

通信フライアウェイ・キット（CFK）を設置することで、通信障害が発生した際に、通信機能を即時に引き継ぐことができる。

1

（写真2）通信フライアウェイ・キット（CFK)を点検する第374通信中隊サイバー送信監督官カイル・ウィルソン軍曹。

第374通信中隊の無線通信システム課は、このキットの管理を担当している。CFKは、緊急時や有事の際に、NIPR、SIPR、VOSIPと呼ばれる、非セキュア・インターネット・プロトコル・ルーター、セキュア・インターネット・プロトコル・ルーター、ボイス・オーバー・セキュア・インターネット・プロトコルを提供する。

2

（写真3）通信フライアウェイキット（CFK）の設定を行う、第374通信隊サイバー送信監督官カイル・ウィルソン軍曹（左）と同中隊通信隊無線周波数伝送監督官プレストン・カオレロポノ軍曹（右）。

CFKは、緊急時や有事の際に、30分以内に非セキュア・インターネット・プロトコル・ルーター、セキュア・インターネット・プロトコル・ルーター、ボイス・オーバー・セキュア・インターネット・プロトコルにアクセスできる。

3

＜サムライ即応監査＞通信フライアウェイ・キット　横田の即応力を確保（2）

Comm Flyaway kit ensures Yokota readiness during SRI

October 26, 2021

By Yasuo Osakabe
374th Airlift Wing Public Affairs

（写真4）10月20日、横田基地で行われたサムライ即応監査で、通信フライアウェイ・キット（CFK）を設置した後、衛星電話を使ってオペレーターに連絡をとる第374通信隊無線周波数送信監督官プレストン・カオレロポノ軍曹。

無線周波数送信システム技術官は通常、設置先で無線周波数通信システムを設置し、管理を行う。これらの任務には、通信能力を確保するための膨大な種類の通信機器の配備や維持、トラブルシューティング、修理等が含まれる。

4

（写真5）通信フライアウェイ・キット（CFK）を接続した後、電話信号を確認する第374通信隊サイバー送信監督官カイル・ウィルソン軍曹。第374通信中隊無線周波数送信システム課は、通信フライアウェイ・キット（CFK)と呼ばれる機器の管理を担当している。

CFKは、緊急時や有事の際に、NIPR、SIPR、VOSIPと呼ばれる、非セキュア・インターネット・プロトコル・ルーター、セキュア・インターネット・プロトコル・ルーター、ボイス・オーバー・セキュア・インターネット・プロトコルを提供する。

5

（写真6）通信フライアウェイキット（CFK）の設定を完了する、第374通信隊サイバー送信監督官カイル・ウィルソン軍曹（右)と同中隊通信隊無線周波数送信監督官プレストン・カオレロポノ軍曹（左）。

6